

つくる力と暮らす力

完成現場報告

静岡市／『礎の家』

文・写真／ココラボ 山崎健治



視線の通る2つの場所にダイニングと広間のスペースを配置した。
それぞれに違う目的の窓を設け、見る庭と使う庭に分けて景色の見え
方や開け方などの詳細を決めていった。

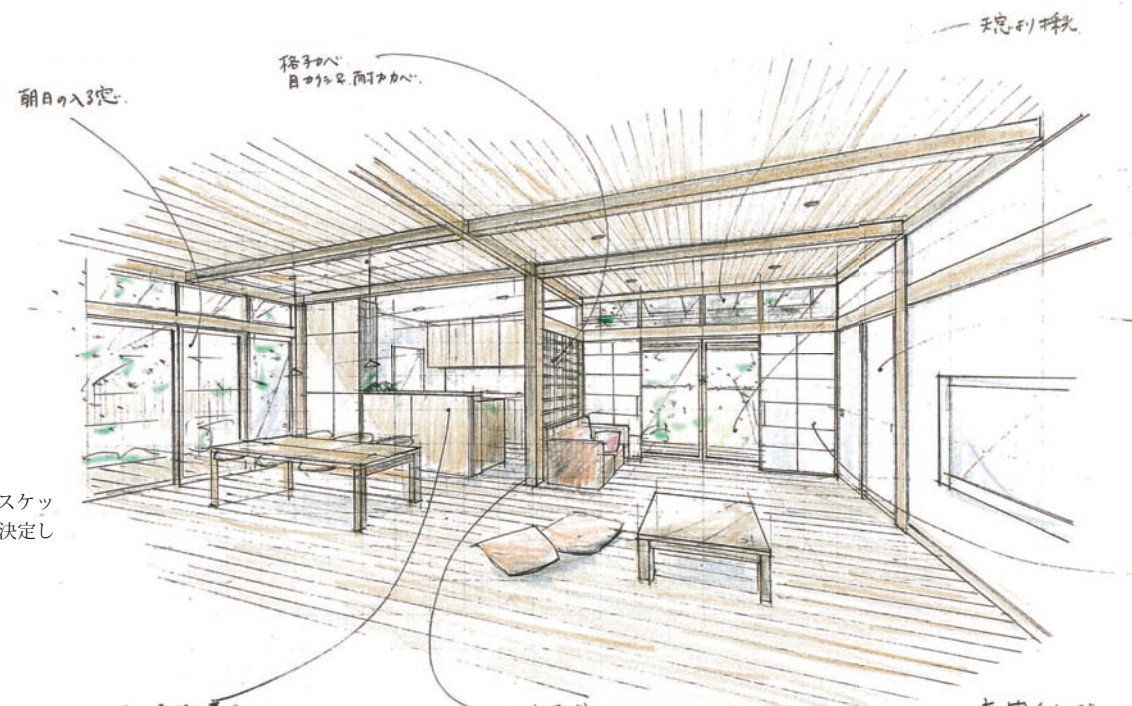
どっぷりと浸かった 家づくり

今回は、静岡市に建築されたHさんのお宅をご紹介します。Hさんの暮らす地域は静岡市の中心部に位置し、住宅地ではありますが少し歩けば繁華街にも近い場所にあります。利便性も高く人気の地域なため、最近ではマンションの建築も目立つようになっています。建て替え前のHさんの敷地には自宅と合せてコンクリート造のビルが建っていました。ご商売をされていたお父さんが数十年前に建てたビルで、Hさん家族が暮らしていた自宅はビルの裏手に位置していたため、日当たりや風通しなども良好と言える環境ではありませんでした。

私がHさんと初めて出会ったのは今から5年前の春、自宅の建て替えについて、すでに具体的に検討されており、様々な情報を集めて自分たちの暮らしに合った住まいについて考えていました。住宅展示場や地元の工務店などはもちろん、時には建築家の設計した住宅などにも足を運んでいたそうです。知れば知る程こだわりも強くなり、機能や性能を満たすだけの住まいではなく、空間やデザインの心地良さをはじめ、家具や照明器具などのインテリアについても興味を持たれていました。

Hさんと初めてお会いした時の事を今でも覚えています。私たち設計屋が興味を持

打合せ初期の頃書いた広間のイメージスケッチ。プランや窓の配置はこの時点ですでに決定していたのがわかる。





広間の壁一面に明るく開放的な窓を設けた。中庭は少し奥まった場所にあるために隣家からの視線も気にならず、毎日開放的に暮らしていると伺った。



右) 『礎の家』を道路から望む。手前側を貸し駐車場とし、その奥にゆったりとしたアプローチを設けた。戸袋や目隠し塀に杉板を現し、左官で仕上げた外壁と合せて落ち着いた雰囲気の外観となった。

左上) アプローチ途中から玄関正面を見る。アプローチ周りを楽しく演出したいと思い、大きめの植栽スペースを2つ設けた。山モミジを主体とし、それぞれの個性で違った表情を楽しませてくれる。

左下) 中庭から望む外観。道路から見るイメージと違い、大きく開放的な窓と深い軒下が印象的な外観。2階には屋根の掛かった大きなベランダを設け、ストレス無く洗濯物や布団を干す事ができる。

心地よく暮らす間取りと窓の配置

Hさんの家の建つ敷地は東南側に道路があり、南に3階建てのアパート、北東側に2階建ての住居兼工場の建つ敷地です。周辺には3階建て以上の建物も多く建っているため開けた敷地ではありませんが、敷地面積で約80坪と恵まれた広さがあり、ダイニング前と広間前に十分な植栽スペースと中庭を設ける事ができました。一見緑に囲まれた環境の様に見えますが、これは部屋の中から他の建物が見えないように考えた間取りと窓の配置による効果だと思えます。南側に位置するアパートの存在を感じさせないように、視線の通る2つの場所にダイニングと広間を配置しました。一方は木製ブラインドを設けて光と視線を調整できる工夫をし、またもう一方は隣家の庭を借景とした開放的な窓を設けました。どちらの窓からも光が差し込み、一日中明るく心地よい場所になっています。

広間の窓にはガラス戸の他に、障子や雨戸も備えてあり、左右の戸袋に納まるようになっていきます。デッキを介して庭の緑と一体となった雰囲気を感じられるようになっており、心地よい風を感じる季節には、窓を大きく開けて過ごす時間も楽しいですね。

障子は和紙を2枚貼った太鼓障子を採用しました。薄い和紙でも2枚貼る事で断熱



広間の窓には障子紙を2枚貼った太鼓障子を設けた。障子を閉めると落ち着いた違う雰囲気の部屋になる。

性が増し、夏の日射や冬の冷気を押さえてくれます。また太鼓障子は意外な所で利点を発揮してくれます。それは、棧の両面と和紙を貼る事で棧自体が見えない事。という事は棧のお掃除をしなくても良いという事。意外な所で奥様に喜ばれる障子です。今回のプラン計画の中でもっとも悩んだ場所はキッチンです。通常は浴室や洗面などの水廻りに近い場所に配置する事が多いのですが、今回は自転車置き場や駐車スペースから近い場所にキッチンを配置しました。ダイニングや広間の配置との関係も大きいのですが、勝手口を介してキッチンの近くに生活の裏の場所を設ける事も目的の一つです。毎日の生活の中ではゴミ出しや外での洗い物などもあります。それらをストレス無く行い、生活の動線がクロスしない事も快適な生活をおくる上で大切な要素の一つだと思っています。

家づくりは家を建てるだけが目的ではなく、プランや設計の打合せ、現場での工事の過程を楽しむ事もまた家づくりの目的だと感じます。「少し寂しいな…」とおっしゃっていた言葉の中に、「家づくりの過程も楽しかったよ」の意味もあるのかな？私も同じ様な気持ちを抱きながら昨年の夏に家の完成を迎えました。

家づくりは家を建てるだけが目的ではなく、プランや設計の打合せ、現場での工事の過程を楽しむ事もまた家づくりの目的だと感じます。「少し寂しいな…」とおっしゃっていた言葉の中に、「家づくりの過程も楽しかったよ」の意味もあるのかな？私も同じ様な気持ちを抱きながら昨年の夏に家の完成を迎えました。

たくさんさんの時間を重ねて、一昨年の秋から工事がスタートし、約10ヶ月の工期を経て無事完成しました。工事中はHさんも毎日の様に現場に足を運んでいただき、大工をはじめ出入りのほとんどの職人と会話をしながら、家づくりの過程もじっくりと楽しんでいただけたようです。「家の建築が終わってしまった」と少し寂しいな…」Hさんが話してくれた一言が心に残ります。

家づくりは家を建てるだけが目的ではなく、プランや設計の打合せ、現場での工事の過程を楽しむ事もまた家づくりの目的だと感じます。「少し寂しいな…」とおっしゃっていた言葉の中に、「家づくりの過程も楽しかったよ」の意味もあるのかな？私も同じ様な気持ちを抱きながら昨年の夏に家の完成を迎えました。



右) 寝室 板倉の杉板と土壁の寝室。土壁は豊田の土を主体として練られ、少し黄みがかかった色をしている。落ち着いた雰囲気の一部屋となり、ゆっくりと眠る事ができるそう。

中) ベランダ 2階には大きな屋根を掛けたベランダを設けた。6人家族の洗濯物を干すには大きなベランダが必要。シーツや布団なども大きく広げて干せると好評です。

左) 天窓 階段室の上部に設けた天窓。階段室は少し奥まったスペースだが、天窓の効果で一日中とても明るい場所に。明るく気持ちのよい天窓だが、夏の間は日射が強いために障子を閉めて明るさを調整している。

特に冬は輻射熱式のストーブ1台で家族体が暖まり、家の何処にいても寒くないと話してくれました。広間に階段があるために暖気が2階に上つていき1階は寒いのは？と思っていたようですが、輻射式のストーブで家の壁や天井、床などの木が暖まり、心地よい暖かさがとても快適だと喜んでいただきました。



おじいさんより譲り受けた壁掛時計。新たな時を刻み始めた。

まだ真夏の季節をこの家で過ごしてはいませんが、木の壁や屋根が外の暑さを遮り、

あたたかく、涼しく、 そして落ち着く空間

昨年の夏に家が完成し、色々な準備を整えてからHさんご家族は9月はじめにお引越をされました。夏の終わりから秋、そして冬の季節をこの家で過ごし、だんだんと家の様子がわかってきたと話してくれました。今までの住まいや仮住まいとは違い開放的な空間は少し落ち着かないとも感じていたようですが、だんだんと時間が経つにつれ開放的な空間が心地よく感じ、今では本当に過ごしやすいと気に入ってくれています。

1、2階の大きな窓から心地よい涼風が通り抜けてくれると思います。昨年の8月に行かせていただいた展示会の際、家のあちこちを風が抜けて心地よかった事を覚えています。また2階の各個室の天井にはシーリングファンを設けています。夏の暑さをエアコンだけに頼らず、風を感じる事で少しでも涼しく感じられるように寝室や子供室などに設置しました。

家の中心に配置された階段室は薄暗い場所になってしまいう事がありますが、今回は階段室の上部に天窓を設けました。天窓の効果は大きく、一日中明るい光を階段室に注ぎ込んでくれます。天窓には障子紙を2枚貼った太鼓障子を備えているので、夏の間は日射の遮蔽と共に柔らかな光を感じさせてくれることでしょう。

Hさんが一番気に入っている部屋はと聞くと、土壁で仕上げた2階の寝室だと答えてくれました。一日の終わりにベッドに入りながら音楽を聞いたり本を読んだりする時間がお気に入り。土壁で仕上げたこの部屋は他の部屋と少し違い、なんだか落ち着くと話してくれました。

右上) 「コロバ通信 48号」で紹介したダイニングテーブル。6人掛けの大きなテーブルではあるけれど、内装やインテリアとマッチし、品のある空間になっている。大きな窓には木製ブラインドを設け、光と視線の調整をしている。

右下) 家のプランの中で一番悩んだのがキッチンのレイアウト。最終的には窓際にL型のキッチンを設置し、ダイニングとの間に収納力のある作業台を設けた。6人家族のキッチンはたくさんの食器やモノがあるため、レイアウトと合せて収納計画も同時に行った。

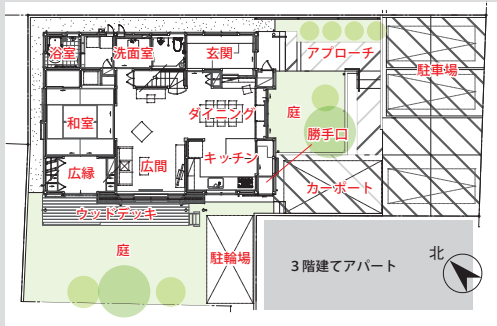
下) ダイニングに設けた窓は景色を見る事を目的とし、中心に窓の棧がこないように計画した。両サイドの窓は框隠しの片引き窓とし、スッキリと綺麗に見える納まりを心掛けた。



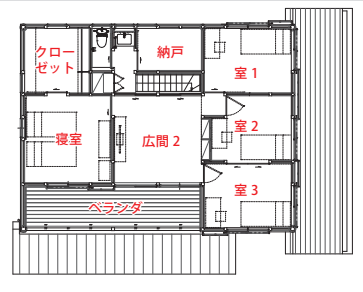
お気に入りの 家具とインテリア

家の打合せの途中、Hさんは家具についてもよく質問をされました。特にダイニングテーブルや椅子について話をし、テーブルの脚の作りや寸法について悩んでいました。一番の悩みはテーブルを誰に作ってもらうかという事。希望の樹種やサイズ、脚の形状などを伝えても、最終的には作り手のセンスで全く違ったものになってしまったことをHさんは感じ取っていました。本やインターネットで色々なお店を調べては電話をし、時間が取れば直接足を運んで作り手の話を聞いていました。私もその行動力には感服し、粘り強い精神に多くを学ばせていただきました。最終的には藤枝市の家具工房（コロバ通信48号で紹介しています）で製作してもらう事になり、家具職人のHさんと何度も打合せを行いながら満足のいくテーブルができ上がりました。6人がゆつたりと食事ができる大きなテーブルで、少し曲線を描いているのがHさんのこだわりです。大きなテーブルですが威圧感が無く、この家にピッタリと合ったテーブルに仕上がったと思います。テーブルに合せた椅子は家が完成する前からすでに集めていた椅子です。家の打合せをはじめた頃から好みの椅子をひとつずつ集め始め、その過程を楽しみながら家の完成を待つて





1F 敷地図



2F 平面図

仕様内容

家族構成	家族 6 人
敷地面積	314.84 m ²
建築面積	108.44 m ²
延べ床面積	170.17 m ²
構造	落し板壁構法 2 階建て
屋根	カラーステンレス銅板 長尺段葺き
外壁	マサ土掻き落とし仕上げ ガルバリウム銅板
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、ヒバ ペアガラス+アルミサッシ (ペアガラス)
天井仕上	杉板本実張り 厚 12mm
壁	漆喰塗り、土塗り、落し板現し
床	栗本実板 厚 15mm
内部建具	オリジナル木製建具
キッチン	オリジナルキッチン
洗面化粧台	オリジナル化粧台
浴室	オリジナル浴室
設備	壁、天井：青森ヒバ 床、腰壁：サーモタイル 200 角貼り
設計者	山崎健治
施工	有限会社ころも造建築研究所
竣工	平成 25 年 8 月



『礎の家』の工夫と空間をご紹介します

寸法や素材など細部までこだわったHさん。広間やキッチンなどのメイン空間の他、トイレや玄関などにもHさんの情熱が注ぎ込まれています。

デッキの上に細かなピッチで垂木を並べた庇を設けました。垂木のリズムが心地よく、光の陰影が楽しめる空間です。



玄関にはナラの木でつくったベンチを設けた。背板や格子戸を設け、ゆとりの空間としている



天井を低く抑え、落ち着きのある玄関に。床には栗の厚板を使用。土間は伊勢砂利の洗い出しで仕上げた



コカラが定番の木のお風呂。壁と天井には青森ヒバを使い、床はサーモタイルで作られている



1 坪サイズの住宅としては大きめのトイレだが、床のタイルや照明の感じからとても落ち着く雰囲気空間に

必要なものが、必要な場所に。

Hさんの家は6人家族の暮らすお宅です。少し前までは当たり前な家族人数でしたが、現代では核家族の形態で家づくりをする方が多いため、少し大きめといった印象のお宅に見えます。人数が多いと言う事は、食器やお鍋などのキッチン用品から始まり、靴や衣類、それぞれの私物などを含めるとやはりそれなりに収納場所も必要になってきます。使わなくても捨てられない思い出の品や、一年に一度だけ使うもの、または趣味で集めた記念品や遊び道具なども数知れず…。収納はたくさんあるに越した事はないと言う方もいますが、ただ収納があっても使い勝手が悪ければ意味がありません。Hさんとの打合せの中でも度々収納については話が出てきました。趣味である釣り竿の置き場所やキッチン周りの食器や調理道具、お母さんの着物や本、仕事で使う書類やプリンターなど。それぞれに使いたい場所や収納の仕方があり、要望を細かく伺いながらそれに合せた造り付けの家具を設計しました。

キッチンの収納は食器類を中心に調理道具の場所を考えながら、また、ダイニングの横にはお仕事で使う書類の寸法を計りながら収納のサイズや大きさを決めていきました。出窓スペース下には収納と合わせてプリンターの置き場所も確保し、スライド棚で手前に引き出せる工夫も隠されています。その他、玄関収納やTVボードにも使い方に合せたちょっとした工夫がされています。同じ収納場所でも予め納めたい物が分かっていたらサイズも工夫も色々と考えられます。ストレスなく暮らすためにも設計段階から収納計画をしっかりと行い、必要なものが必要な場所に収納できる計画を心掛けていきたいと思います。



上) 収納力があるが玄関をスッキリとさせたいということで、低くて長い玄関収納とした。玄関まわりの小物入れに引出しを設置。
下右) HさんデザインのTVボード。タッチ式で開閉する引出しや、目隠しをしながらリモコンの赤外線が通る扉の素材など、こだわりがたくさん。
下左) 幅 1 間の洗面化粧台。カウンター下の扉や引出し、鏡横に小物収納を設けた。洗面まわりはたくさんのものが溢れてしまう場所。予め収納計画をしておく事が大切です。

つくる力と暮らす力

家づくりを行う事は人生の中でもとても大きなイベントです。古くなった家の建て替えや家族の成長に合せてのステッブアップ、ご結婚やご両親との同居などを機会に家づくりを考えている方もいらっしゃると思います。理由は人それぞれ違うと思いますが、家づくりにはとても大きな力を必要とし、時間も費用も、時にはご両親や友人などの協力も必要になってきます。

今回ご紹介した『礎の家』のHさんも家づくりにとっても大きな力を注ぎ込み、時間を掛けてじっくりと考えつくり上げてきました。色々なものを見たり聞いたり、また実際に体験する事で考え方も変わり、機能的や性能だけではなく、空間やデザインをはじめ、床や壁の素材についても納得するまで自分の目で確かめていました。

家づくりの方法も様々あり、また、そこに掛けられる時間や費用も人それぞれだと思います。住宅会社や設計者に任せても綺麗でオシャレな家はできると思いますが、やはりそこに暮らすのは住まい手です。見た目やコストだけにとらわれず、毎日を心地よく暮らすための工夫やデザインなど、小さな事でも住み始めると気になる事もたくさんあります。最後まで諦めず流されず、つくる力を磨いて納得のいく家づくりを進めていただきたいと思います。そして

家ができて上がった後も家づくりは終わりません。インテリアや植栽など、暮らしながら少しずつつくり上げて行く力も必要だと思います。せっかく時間を掛けてつくり上げた家でも、暮らし方次第では活かされない事もあります。素材の手入れやメンテナンスなども含めて、暮らし方を身につけていただきたいと思います。

『礎の家』が完成し約8ヶ月の月日が経過しました。その間に何度か伺いしていますが、玄関にはいつも綺麗な花が飾られ、少しずつ部屋の様子が変わっている事が見えます。先日お伺いした時は水槽を発見！ だんだんとHさんご家族の暮らしと家が馴染み、少しずつ暮らしにゆとりが生まれているのかな。庭に植えていただいた木々の成長と共に家の様子を楽しみにしながら、これからもよくちよく遊びに行きたいと思っています

